

成城大学 2026 年度 学部別選抜 (A 方式)

2 月 4 日 : 英語

■解答例

〈注意事項〉

ここに掲載するのは解答の一例であり、その他に別解がある場合があります。

I

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| ア | オ | ウ | ア | ア | イ | ウ | オ | イ | エ | ウ | イ | ウ |

II

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| ウ | イ | エ | イ | エ | イ | オ | ア | オ | オ |

III A

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ウ | ウ | オ | オ | イ |

III B

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| イ | エ | オ | ア | ア |

III C

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | | | | |
| ウ | イ | エ | ウ | オ | ア | イ | オ | ウ | オ |

IV

- (1) Are you OK with that
- (2) Can/Could you tell me where
- (3) if you could/ would
- (4) glad/happy to hear that
- (5) I didn't order this

■出題意図

- [I] ロボットの発達と人間の生活との関係を、ロボットがどのように人間に関わることができるか、それに対して人間がどのように反応するかについて論じる文章である。テーマに関して、著者がどのような理由に基づいてどのような主張を行い、引用した様々な人物のコメントを紹介しながらどのように議論を展開していくかを、きちんと把握できるかを問うている。設問では以下の内容を問うことを意図している。
- ・各段落で述べられている内容をきちんと把握し、文章の中でどのように議論が展開するかを把握できているか。
 - ・英文の中で用いられている構文が議論の中でどのような役割を担っているかを理解しているか。
 - ・用いられている語彙や表現に関して、キーワードを把握するとともに、重要な語彙表現を理解できているか、また、知らない語彙についても文脈の中でその意味内容を推測し理解しているか。
 - ・文章全体を読んで、そのメイン・テーマがどのようなものであるかを理解できるか。
- [II] 様々な分野、トピックの英文に関して、その議論の流れを理解し把握できているかを確認することを意図している。一段落程度の英文の中で、英文がどのように構成され、議論がどのように展開されているかを把握し、議論の流れに沿う選択肢を選ぶことが求められている。
- [III]
- [A] 短い英文の内容を把握し、その内容に沿って文意が伝わるように空所に入れる適切な語彙表現を選ぶことができるか、また文法的に正しい文を完成できるかを問い、英文理解力、語彙力、文法の知識を確認することを意図している。
- [B] 初見の語彙や多義的な語彙について、英文の中で用いられている意味内容を把握し、その内容に近い語彙表現を選ぶことができるかを確認することを意図している、語彙に関する問題である。
- [C] 英文の内容を理解する力、語彙力、構文に関する知識、英文を構成する力を問うことを意図している並べ替え問題である。
- [IV] 英文で与えられる状況とその中で交わされる会話を理解し、その場面で適切なコミュニケーションを行うために、相手の意向を尋ねたり依頼をするといった言語の機能を適切に用いて英語表現を産出する力を問うことを意図している。

成城大学 2026 年度 学部別選抜 (A 方式)

2 月 5 日：英語

■解答例

〈注意事項〉

ここに掲載するのは解答の一例であり、その他に別解がある場合があります。

〔I〕

(1) ア (2) エ (3) イ (4) ア

(5) ウ (6) ア (7) イ

(8) 歴史が純粋な事実として提示されること。

(9) ア (10) ウ

(11) コロンブスは先住民人口減少のきっかけを作ったから。

(12) イ

〔II〕

(1) 世界遺産

(2) ア エ キ ク

〔III〕

A

(1) エ (2) エ (3) イ (4) ウ (5) エ

(6) イ (7) ア (8) イ (9) イ (10) ア

B

(1) ウ (2) ア (3) ア

〔IV〕

(1) offer my seat.

(2) use my smartphone to figure out my location.

(3) tell her to look at university websites for information.

■出題意図

〔I〕

長文読解問題。専門家でない一般人が美術作品の解説文・感想文を書く新しい試みについての英文を素材とした。美術館のあり方と問題点とそれらを改善する理由や手段について理解できれば設問を解くことができる。

英文はやや長いとはいえ、語彙や統語構造は標準的。難易度が高い単語には注を付けた。各設問は下線が付された箇所だけではなく、前後関係から正解を選ばなければならないように作問されている。(8)と(11)は、受験生が自らの言葉で説明する力を試した。

〔II〕

日本の世界遺産について3つの資料を総合的に読み解けるかを問う問題。(1)は英文の文脈をしっかりと理解しているかを問う設問。(2)は必要な情報を資料から読み解く読解能力を問う設問。英文を正確に理解した上で、リストや地図情報と併せて総合的に理解する応用的な読解能力が必要となる。

〔III〕

Aは、文法、語法など基本的な英語の言語知識を問う設問。設問はどれも平易なもので、高校までの学習内容を習得していれば確実に正答できるものを狙って作問した。

Bは、4段落の英文に関して、文脈から順番に並べ替えられるかを問う設問。英文の流れを適切に理解していれば、正しい選択肢を選ぶことは困難ではないが、3つの設問をある程度のスピードで読解する力が要求される。

〔IV〕

英語である状況を設定し、その状況に置かれたらどのように反応するかを考え、英作文を完成させる3つの設問は、場面に応じて適切に英語で受け答えができる能力を有しているかを問う。解答は、解答例以外にもたくさんあるが、自分の限られた語彙を用いて、英語で自然で円滑なインタラクションができる基本的な英語コミュニケーション能力が試される。

成城大学 2026 年度 学部別選抜 (A 方式)

2 月 6 日 : 英語

■解答例

〈注意事項〉

ここに掲載するのは解答の一例であり、その他に別解がある場合があります。

[I]

(1) ウ (2) ウ (3) エ (4) イ (5) イ (6) イ (7) ア (8) エ (9) ア (10) エ (11) ウ

[II]

- (1) 老眼を矯正しないと一家の大黒柱が家族を養うのが困難になること。
- (2) 安価な眼鏡による視力矯正で、収入が大きく増えるから。

[III]

A

(1) ウ (2) ウ (3) イ (4) ア (5) イ (6) イ (7) エ (8) ウ (9) ウ (10) ア

B

(1) イ (2) ウ (3) ア (4) ア (5) エ

[IV]

- (1) I like the atmosphere of the university.
- (2) I know you've worked hard! Trust yourself!
- (3) I'm planning on spending time with my family.

■出題意図

[I]出題文は、人々が感じる孤独、寂しさへの対処法として、ボランティア活動をすることの有効性について書かれた米国発の新聞記事である。具体性のある、テンポよく書かれた英文を、要点を抑えながら読み進め、文章全体のメッセージをつかむ力を試すことを意図した。記事には、ボランティア活動にたずさわる人々の発言がたびたび出てくる。発言が直接引用されている部分もあるが、前後の文脈を踏まえて、発言の意味を正しくとらえられるか問う問題を複数出題した。

[II]

日本語による短文記述をとおして、文章の読解を問う問題である。(1)は、指示語の内容を本文の該当箇所の訳出をとおして解答できるかを問う問題。(2)は、段落全体の内容と流れをまとめることで、下線部の理由(ないしは根拠)の説明を求める設問となっている。

[III]

A

短文の空所補充問題。間違いやすい文法事項や語句を取り上げ、基本的な知識が身についているか確認することを意図した。

B

様々なトピックに関するまとまった内容の英文を読み、空所に適切な英語を補充する問題。なじみのないトピックであったり、未習の語句が含まれていたりしても、文章の論理的展開をとらえて、正答にいたることができるかを確かめる問題である。

[IV]

与えられた会話文のなかで適切な応答を作成する「条件英作文問題」である。自身のもつ語彙を最大限に活用し、場面に応じたコミュニケーションができるか、基礎的な文法力を有しているかを問う設問になっている。

■解答例

〈注意事項〉

ここに掲載するのは解答の一例であり、その他に別解がある場合があります。

[I]

(1) イ

(2) バス事業の経営にはあまりに高額のコストがかかるので、より効率的なシステムを作ることが最優先となったということ。

(3) ウ (4) ア

(5) 馬は約二時間しか働けないので (馬が車を引くのは約二時間が限度なので)、車両ごとに一日最大十頭の馬を必要としたから。

(6) エ (7) ア (8) イ (9) イ・カ (10) ウ

[II]

(1) 国に到着する人々に、きわめて厳格な制限を課していること。

(2) 生活の一部を残して (置いて) くるよう (持ち込まないよう) 外国人に求めることはできない (外国人の生活のすべてを受け入れなければならない)、とする無条件の歓待。

[III]

A (1) エ (2) イ (3) ウ (4) ウ (5) イ (6) イ (7) ウ (8) ア (9) ア (10) エ

B (1) ウ (2) エ (3) ア (4) イ (5) エ

[IV]

When you are in trouble, it is important to imagine what other people would think in the same situation.

■出題意図

[I] 長文読解問題。欧米における公共交通としてのバスの歴史を、17世紀の乗合馬車から環境に配慮したハイブリッドバスに至る流れとして概観した英文を問題文とした。語数は1000語弱と長文として標準的で、「考える葦」のブレーズ・パスカルとバスの起源との関わりなど豊富なトピックを手際よく並べながら、馬車からトラムを経て今日のエンジン駆動のバスに至る公共交通の変遷を、社会との相互作用（中流階級の勃興、大都市／郊外圏の形成など）も含め平易に解説した文章であるため、設問は全体の流れを的確に捉えつつ、細部の論旨展開および内容を、適切に理解できているか否かを問うものとしている。また記述問題においては、基礎的な文法および単語の知識に基づいて、英文の内容を正確に読み取り日本語の文章として再構成する能力の確認を、主として意図している。

[II] 長文読解問題。西欧の哲学者たちによる「歓待(hospitality)」論の系譜のコンパクトな英文解説を問題文とした。「歓待」概念は受験生には馴染みないものと思われるが、ここでいう「歓待」は「外国人や移民や難民を受け入れ迎え入れること」を指す旨を日本語で注記し、むしろそれが今日の社会で活発に議論されているトピックであることを明示した。『永遠平和のために』のカントが主張した「訪問権」（条件付きの歓待）に始まり、ホロコーストを生き延びたレヴィナスを経て、晩年のデリダが論じた「無条件の歓待」に至る系譜を、深い掘り下げはないが教科書的にまとめた問題文に対して、設問はその要点である条件付きの歓待／無条件の歓待の対比に関わる箇所について、それぞれ日本語での説明を求め、全体的論旨の把握と基礎的な語彙知識（ask O to do, leave behind など）の確認を意図した問題とした。

[III]

[A] 空所補充問題。基本的な文法および語法の知識を問うことを狙いとしている。関係代名詞や分詞構文の適切な使い方、動詞と前置詞を組み合わせた語法や慣用表現など、正しく英文を読解し運用するために必須となる、基礎的事項の理解度を確認することを意図した。

[B] 空所補充問題。ニュースや評論など、様々な話題に関する短めの英文を読み、前後を踏まえて空所に当てはまる内容を選ばせる問題である。丁寧に英文を読み、トピックと内容を正確に理解する力を確認することを意図した。とりわけ、順接となるのか、逆接となるのか、あるいは具体化するのか抽象化するのか、といった文章の論理を正しく推測する能力を問っている。

[IV] 英作文問題。日本語と英語の構造の違いを理解し、正しい語彙・文法を用いて平明な英文を作成する能力を確認することを狙いとしている。適切な主語や状況に合った表現を選択しながら、動詞・助動詞・接続詞などに関わる基礎的な文法知識にもとづいて、従属節と主節を正しく構成できるかを問うことを意図した。